

# GrADS Syntax Highlight

本拡張機能は`.gs`ファイルに対してsyntax highlight(コード中のキーワードに従って色を付ける機能)を提供するものである。ただしあくまでsyntax highlightのみである、したがってコードの正しさを保証するものではない(つまり、例えばある行がコメントアウトされていてもその行が実行されてしまう可能性もある)のでGrADSで実行する前に必ず各自で確認していただきたい。また、そのようなバグに遭遇した場合や私の知らない重要単語でハイライトさせるべき!という意見があればぜひ樋田に伝えてください、できる限り早く対応します。

さらにこの拡張機能を改良すればnamelist.inputやctlファイル、その他拡張機能がなくハイライトされないファイルをハイライトさせることも可能である。興味がある人はやってみると(正規表現の勉強にもなって)おもしろいかもしれない。

## 参考URL

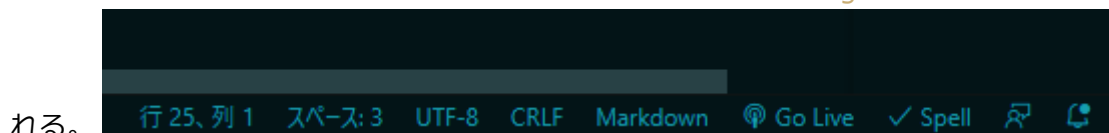
- [github.devでマイナー言語のシンタックスハイライト](#)
- [vscodeで自作のシンタックスハイライト・スニペット拡張機能を作る](#)
- [Visual Studio CodeやAtomのシンタックスハイライト拡張機能を作る](#)
- [TextMateでの正規表現ルールの日本語訳](#)
- [nameの命名規則](#)

## インストールと使い方

使用するには以下の手順に従う。

※VS Codeで`.gs`ファイルを書く人はRemote-SSHも使っている人だと思うので以下の手順ではそれを想定し、stormの環境で書いている。他の計算機でも使いたい場合はscp等を使ってgrads-syntax-highlightを転送すれば動くはずである。Remote-SSHについてわからない人は他の詳しい人に聞いてほしい。

1. 以下のコマンドでstormの/work1/toida/以下にあるgrads-syntax-highlightをあなたのホームディレクトリ以下のvscode-server/extensionsディレクトリにコピーする。
  - `cp -r /work1/toida/grads-syntax-highlight /home/[YOUR USER NAME]/.vscode-server/extensions/`
2. Ctrl(Macの人はCommand)+Shift+Xで拡張機能一覧を開き、grads-syntax-highlightがstormの欄にインストールされていることを確認する(おそらく下の方にあるはずである)。
3. VSCodeを再起動した後、最初は適当な.gsファイルを開き、右下のCRLF(あるいはLF)と書かれた場所の1つ右の言語モードの選択(下の画像ではMarkdownと書かれている場所、デフォルトではプレーンテキストとなっているはず)をクリックし、その後出てくるウィンドウで'.gs'に対するファイルの関連付けの構成...をクリックし、GrADSを選択する。すると今開いている.gsファイルのコードがハイライトさ



れる。

4. 以降は.gsファイルを開けば自動でハイライトしてくれるはずであるが、されない場合は上記手順3を再度行ってほしい。

## Release Notes

1.0.0 (2021/12/06)

Initial release of GrADS Syntax Highlight